



スポットライト1

平成25年度 東北6県及び新潟県の電気事故の概要

関東東北産業保安監督部 東北支部

1 総括

平成25年度の電気事故総件数は81件で、前年度の89件に比べ減少しました。東日本大震災の発生で破損事故が多かった平成22年度の113件を除くと、近年は80件台で推移しています。

事故の種類別に前年度と比較すると、自家用電気工作物からの波及事故が26件で9件の減少となりましたが、それ以外は横ばい状態です。(図1、図2)

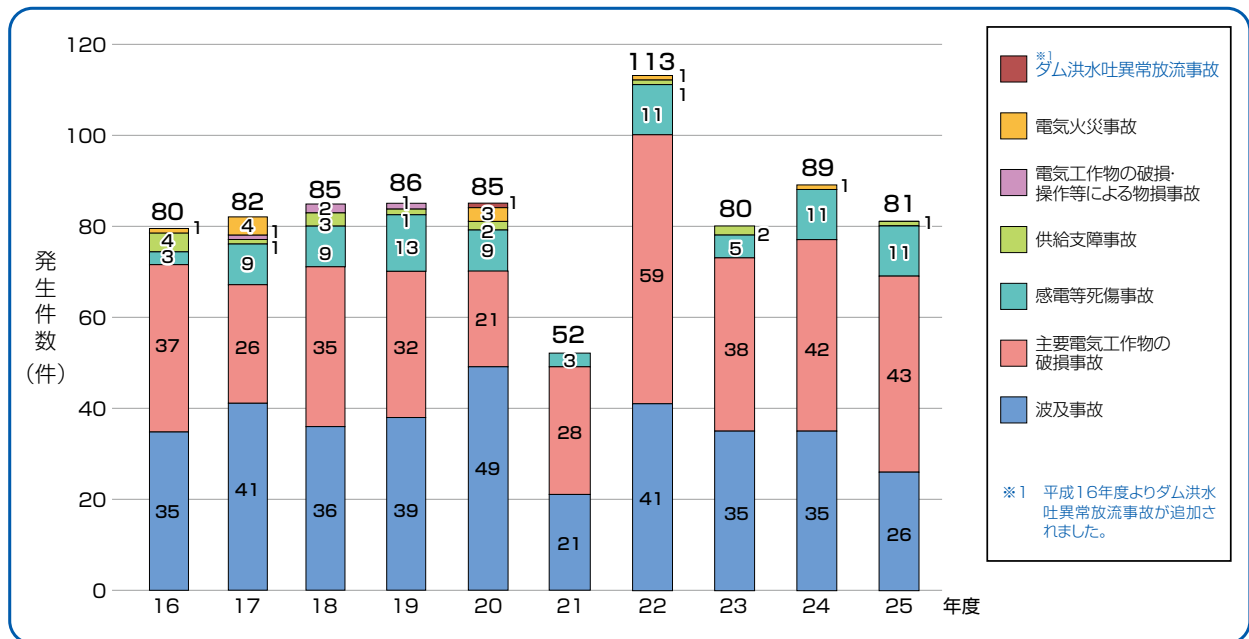


図1 電気事故発生件数の推移 (電気事故の種類別)

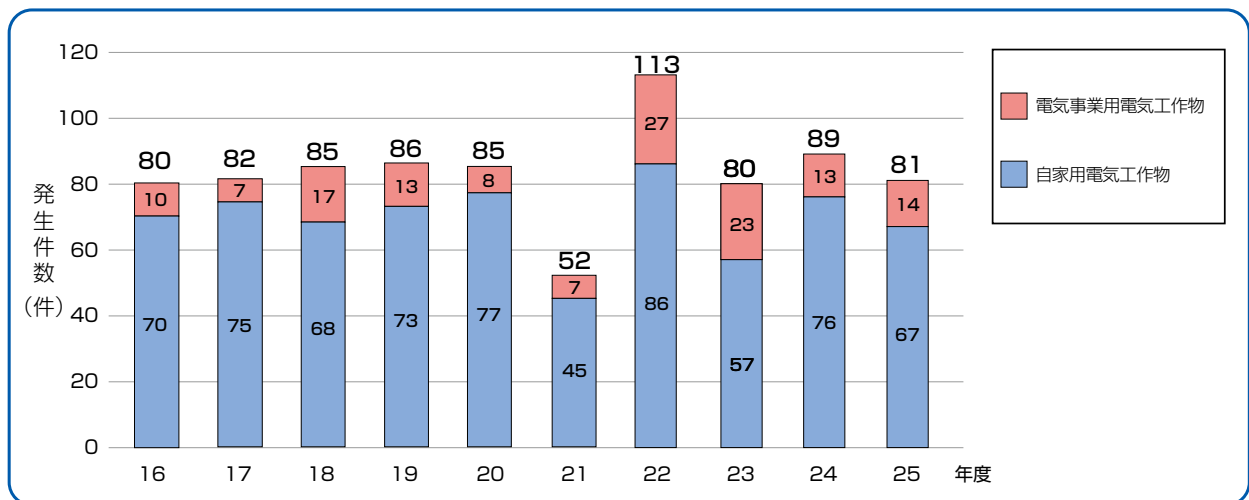


図2 電気事故発生件数の推移 (電気工作物別)

2 感電等死傷事故

平成25年度の感電等死傷事故は11件発生し、前年度と同数でした。

被災者別に見ると、作業者の感電等死傷事故は9件発生し、前年度に引き続き多くなっています。公衆については2件と前年度比1件の増加となりました。(図3)

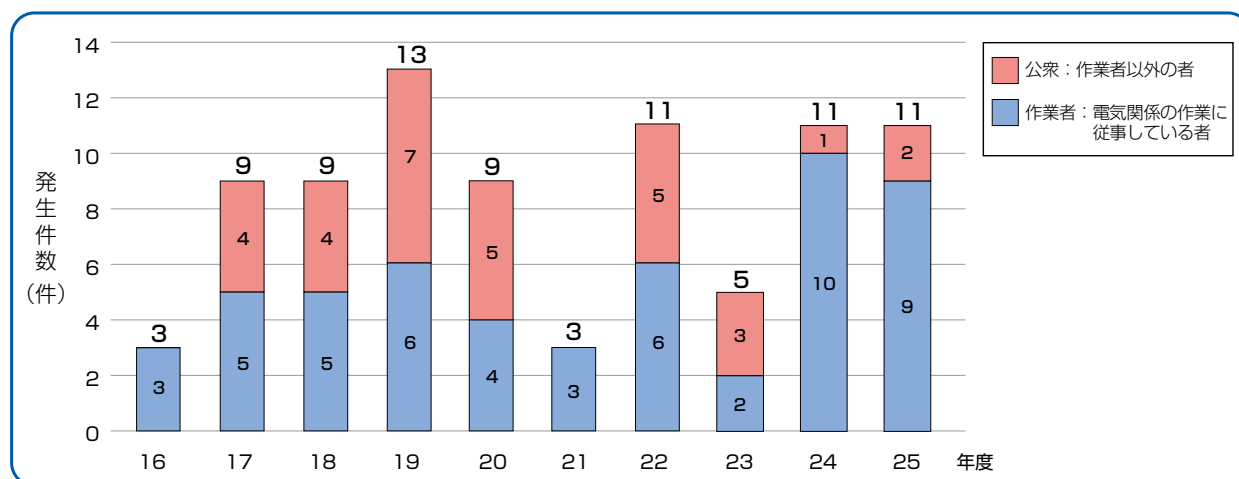


図3 感電等死傷事故発生件数の推移 (被災者別)

3 他社への波及事故

平成25年度の波及事故は26件発生し前年度に比べ9件の減少となりました。すべて自家用電気工作物からの波及事故でした。

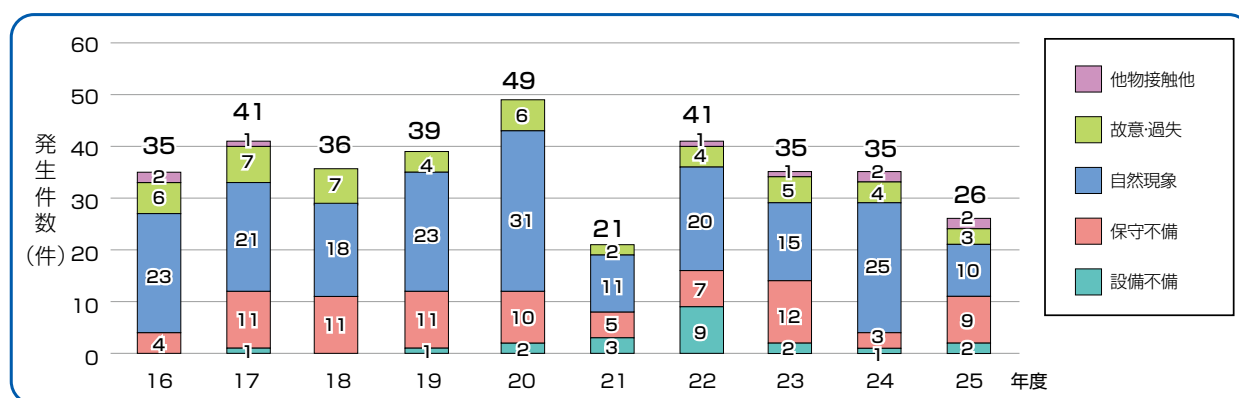


図4 波及事故発生件数の推移

原因別に見ると、「自然現象」が10件で最も多く、「保守不備」が9件、「故意・過失」が3件、「設備不備」が2件、「他物接触」が2件となっています。

「自然現象」の10件中『雷』が9件、『氷雪』が1件であり、雷の9件のうち直撃雷によりPASが破損した案件（5件）、誘導雷により高圧引込みケーブルが破損した案件（3件）ですが前年比15件の減少となりました。

「保守不備」の9件中『保守不完全』による波及事故は7件で前年度より4件増加しています。前年度は「保守不備」

が少なかったのですが、平成25年度は再び増加となりました。

「故意・過失」の3件はすべて『火災』からの電気工作物への延焼です。

また、「設備不備」のうち高圧気中開閉器の製作不完全による波及事故については、ほぼ抑制されているものの未だ1件発生しております。これは、メーカーリコール品の高圧気中開閉器であることを認識しながらも交換等の検討を行っていない事例となっています。このため、高圧気中開閉器メーカーホームページ等を再度確認し、波及事故が起こる前の早期の取替が必要です。

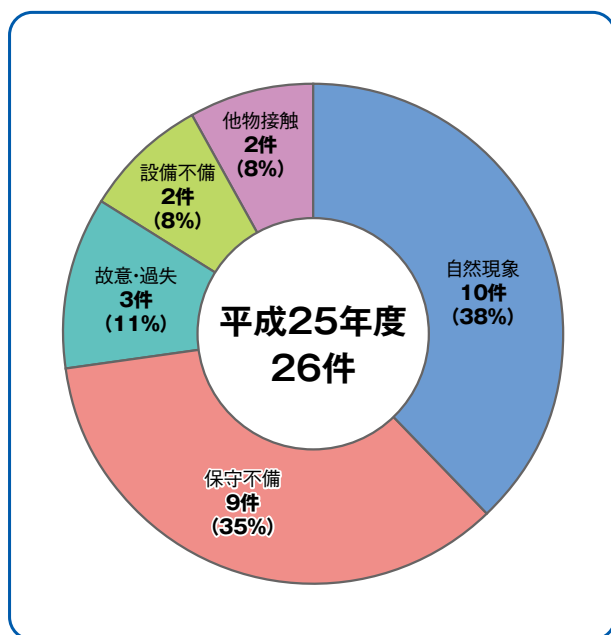


図5 波及事故原因別発生状況

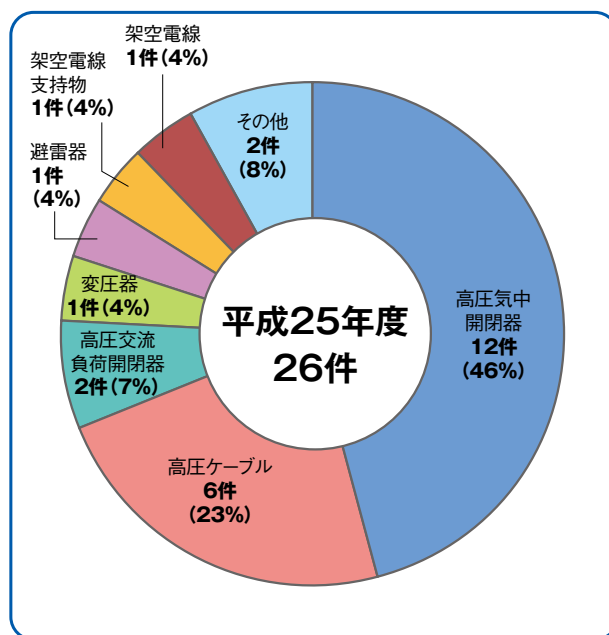


図6 事故発生電気工作物分類

4 県別・月別発生状況

平成25年度に発生した波及事故について県別及び月別について以下に示します。(表1)
新潟県で雷によるものが多く発生しました。

表1 自家用波及事故県別・月別発生状況 (平成25年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
青森								1	1		1		3
岩手											1		1
秋田					1								1
宮城					1								1
山形		3					1	2				1	7
福島				1		1							2
新潟			1	3	1	1	1	2	2				11
計	0	3	1	4	3	2	2	5	3	0	2	1	26